ふるさとの昔話

富士岡のいちょう地蔵

◁清水君のかいた大いちょう

富士岡の地蔵堂の後ろに、乳房が垂れたような大いちょうがあるので、ここのお地蔵さんのことを「いちょう地蔵」と呼んでいます。いちょうの木は、樹齢600年以上だといわれ、静岡県の天然記念物に指定されています。7月23日は、お地蔵さんの縁日です。

子育ての地蔵さん

昔、赤渕川に山津波があって、一軒の民家が矢のように流されてきました。ところが、不思議なことにこの大いちょうのところまで来ると、枝にからまってピタリととまりました。流れて来た家の屋根の上には、乳飲み児を抱えた母親がしがみついていました。近所の人々がかけつけて助け出しましたが、母親は驚いたために乳房からは一滴の乳も出なくなってしまいました。子供は火のついたように泣き、母親はただ途方にくれるだけでした。

その時、いちょうの木の乳房に気がついた母親は、言い伝えが本当であってくれるようにと祈りながら、いちょうの木の乳房に針を刺してみました。すると、その晩から流れるように乳が出るようになりました。

やがて、成人したその時の子供は子育ていちょうのご神体として、石のお地蔵さんをいちょうの木の根元にまつりました。

大勢知ってるよ

清水千秋君

吉永第一小学校4年生の清水千秋君は、いちょう地蔵の大いちょうを見事にかきました。清水君は「お地蔵さんの話は、お母さんから聞きました。友達も大勢知っています。葉が多いのでかくのに苦労しました。」と語ってくれました。

地名の由来

花　守

花守というのは、旧吉永村の富士岡地区の小字で、普通には花守村と言ってきました。赤渕川のつくった砂州の上に、慶長のころ開拓の鍬が入れられたものです。

昔、この村の山神社の境内に遠くからでも鮮やかに見える美しい花の咲く木がありました。人々はそれを花森と呼びました。それがいつのまにか花守に転化して地名となったものでしょうか。

富士のあゆみ ②

富士のあけぼの

▷一万年前に人の住んでいた峯山遺跡

富士市にいつから人が住み始めたのでしょう。今から約1万年前の無土器文化時代には、すでに人が住んでいた形跡があります。

間門と鵜無ヶ渕の中間に峯山という台地があります。ここからは明らかに人手が加えられた黒曜石の小片が見つかっています。

縄文時代（約9,000年～2,200年前）になると、人は弓矢で猟を行い土器をつくり、中には作物を作り始めた者もあったといわれます。天間沢遺跡からはこの時代の住居跡が発見されています。

こうして人は集団生活を始め、弥生時代（約2,200年～1,700年前）には、稲作が定着しました。

今泉に広がっていた沖田遺跡からは、多くの木製品・土器片が発掘されました。そして時代は古墳文化時代に続きます。(文は郷土史家鈴木富男氏の著書を参考にしています)

※古墳文化時代は前シリーズをごらんください。

こちら編集室

雨も降らないと困りますが、毎日続くとさすがにうんざり。家の中は洗濯物の山で「何とかしろ」と余計なけんか。本号がお手元に届くころには梅雨が明けるといいのですが…

発　行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地☎51－0123　人　口　21,5623人　男　107,152人　女　108,471人
編　集・総務部広報広聴課　世帯数　61,155世帯　（6月1日現在）